

いのちって大切なんだなあ

荒川区立汐入東小学校 五年

梅沢 向陽

柳田先生こんにちは、ぼくはいのちをいただくという本を読みました。その本は読んだらとてもお肉になる牛達のことかと思うかんでしまうほど悲しい話です。

ぼくは牛達がお肉にならないとお肉が食べられないのはわかるけど牛達がとてもかわいそうだと思います。いのちをいただくという絵本にも牛がとかれる前に牛が泣いた場面があります。ぼくだったら牛達をにがしてあげたいです。育てていた人の元に帰してあげたいです。ときたくない人もがまんさせずにやらせたくないです。でもみんな

お肉を食べたいです。ぼくは、牛をとかずになんとかお肉をとる方法がないかなあと思いました。でもどうやったってお肉は動物の肉をとるしかできないのがくやしいです。

ぼくは、好ききらいが多いです。がんばっても食べられないものもあります。残したこともあります。でも平気で残す気はまったくありません。そんなことなんてしたらとかれた意味がなくなってしまうからです。この前つりに行きました。3びき魚をつりました。おいしく食べようと持ち帰りました。お母さんが「この魚食べられないよ」と言われてショックを受けました。いのちを3つもむだにしたと思ってしまいました。もしにがしていれば生きていたとも思ってしまいました。ぼくはとてもくやしかったけどこれからはのこすのは

できるだけやめようと思いました。ぼくはこの本でせいちょうできた所が一つあります。それは「いただきます。」「ごちそうさま。」をしっかりと言うことです。前はあんまり言わなかったけど今はしっかりということが出来るようになりました。これらの目標はすききらいをなくすことをがんばりたいです。